

『南砺 令和の教育改革』

ー 主体的・創造的な学校を支える ー

富山県南砺市教育委員会
教育長 松本謙一

1 はじめに 南砺市の概要

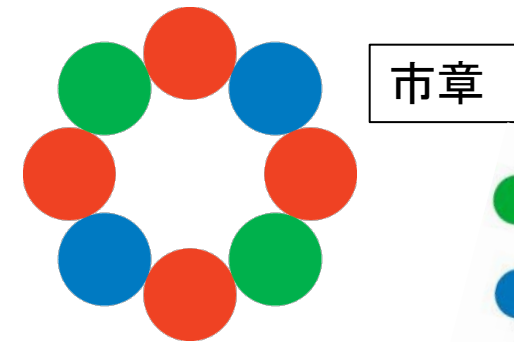


○総人口 46,445人

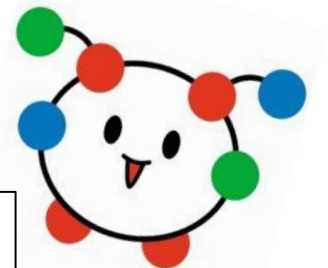
○世帯数 17,516戸
(令和6年6月末現在)

○面積 668.64
平方キロメートル

県内面積2位、人口1/20
山林は全体の約80%
おもな産業:農業



南砺市マスコットキャラクター
なんとくん



日本遺産 木彫刻のまち井波 (旧井波町)



ユネスコ無形文化遺産

城端曳山祭り (旧城端町)

(5月4日・5日)





世界遺産

五箇山合掌造り集落 (旧平・上平村)



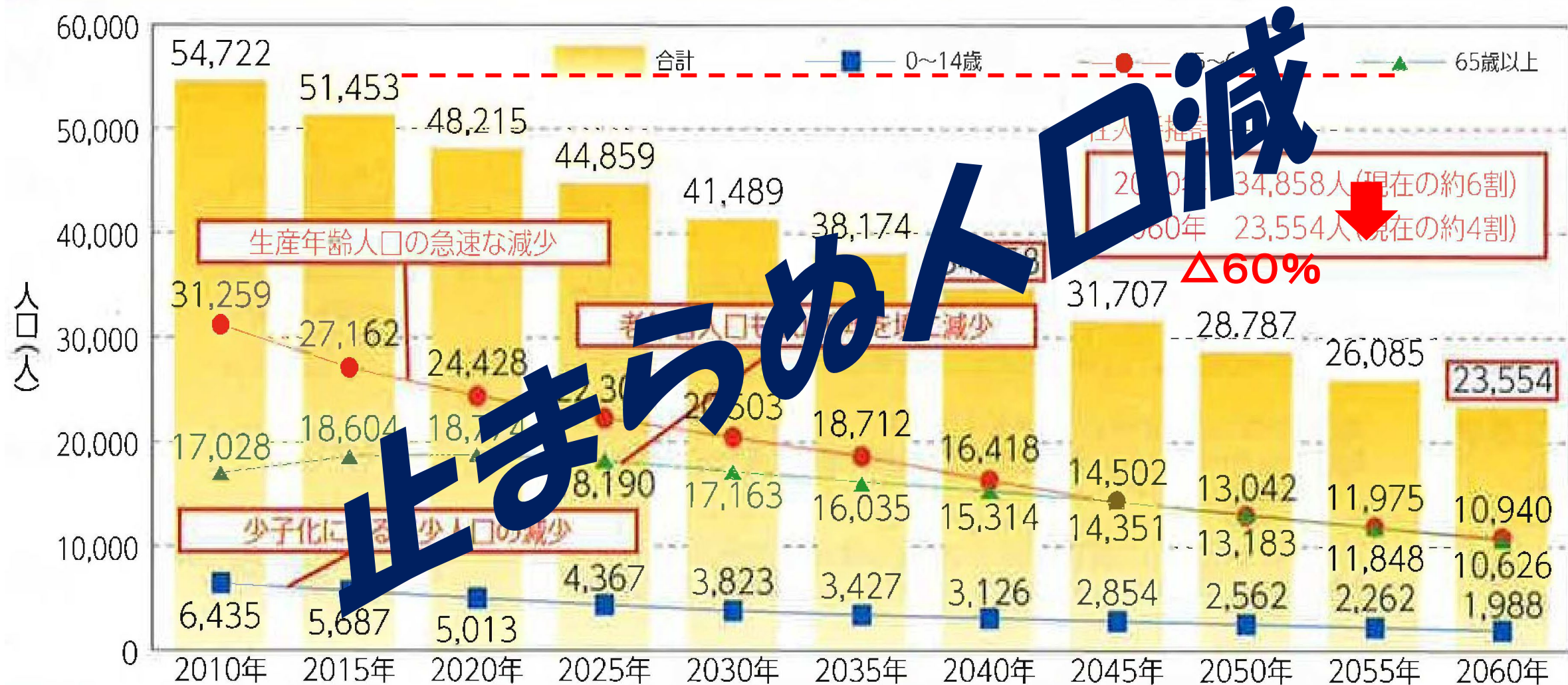
H28.3 第2次南砺市公共施設再編計画

〈30年後の編成方針〉

8地域（合併前の4町4村）に

9 小学校・8 中学校を
それぞれ維持

今後の南砺市の人口推計(※社人研による推計)



要因・・・未婚・晩婚、出生率の低迷、若い世代の都会流出

全公共施設の半減

R1.11.19 富山

45年度に4小2中

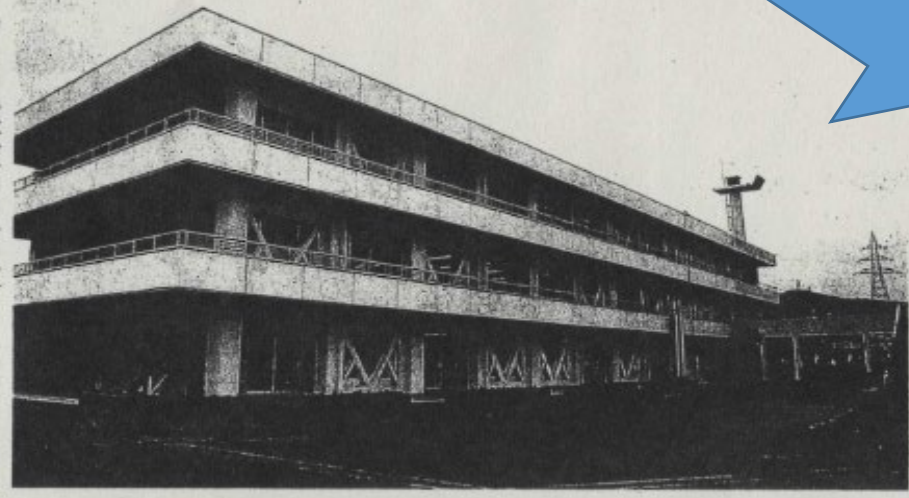
改訂検討委が素案協議

南砺市公共施設再編

南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会は18日、市役所福野庁舎で3回会合を開き、2045年度の9小学校8中学校を4小2中、育園を6園に削減する案を出した。今後、これら素案を基に、施設の削減案を協議する財政シミュレーションの結果を確認する。素案をまとめる。

9小8中から削減

45年度までに公共施設の半減を目指す。公共施設再編計画では、学校再編は対象外となっていた。市は今回の計画見直しに際し、「公共施設など総合管理計画」を基に議論のたたき台として、30年後に8小7中、11保育園とする案を示していた。



30年後にも耐用年数が残る南砺市福光中部小。耐用年数が切れる小中学校を中心に、削減する施設数が検討された

このうち小学校は25、35、45年度までに、それぞれ8、6、4校に減らし、中学校は6、4、2校、保育園は11、7、6園にすることで一致した。小学校については「複数のクラスがほしい」と、中学校に関しては「部活動の選択肢を増やしたい」と、1校当たりの規模を大きくするよう望む意見があった。

このほか45年度までに、子育て支援センター8施設

R1 公共施設再編検討委員会

2 今後の学校再編に 向けての市教委の対応

面積が広すぎる

旧町村の多様な文化も失われる

これ以上、統合するの？

そこで……（どうのいけるか?）

30年後、各地域に8校・中学校維持〈市の方針〉

面積を1/2に〈行方の方針〉

《方向性》

30年後、8地域全ての学校を義務教育学校へ

校区（地域）の文化）……維持・不変

学校配置の特色

①60年前ころから
各町村大規模合併

1小・1中

②20—10年前ころ
小中の**新築・改築**
ラッシュ

20年前
4町4村が合併
→南砺市誕生

南砺市学校配置図



(とはいってもものの・・・一部の市民の意見)

**小規模校ばかりになる
教育環境が悪化しないか？**

地域の存続のためではないか？

一般論：問題解決力の伴った 人間教育を

- 学校規模：1クラス以下
- 学級数：20人以下

小規模校のよさを生かせば
子どもにとっていい環境に

が有効

「WHOカールマン報告」、「グラス＝スミス曲線」より

第Ⅱ期南砺市学校のあり方検討委員会の結論

- ① 統合の方法は、その地域の学校の、
当事者（若い世代）が決定する。

地域内での統合
中学校が統合

→ 義務教育学校

校間統合：隣の学校と統合する

- ② 統合の仕方は、中学校に単級が
断続的に生じる5年前に協議を開始する

南砺市の小中学校

9つの小学校・8つの中学校⇒6つの小学校・5つの中学校・3つの義務教育学校

児童数				生徒数			
小学校	R6	R元	R元との比較	中学校	R6	R元	R元との比較
井波小学校	295	326	-31	井波中学校	155	200	-45
城端小学校	265	374	-109	城端中学校	167	203	-36
福野小学校	622	618	4	福野中学校	313	373	-60
福光中部小学校	299	309	-10	福光中学校	163	187	-24
福光南部小学校	100	91	9	吉江中学校	161	190	-29
福光東部小学校	231	200	68				
義務教育学校	児童生徒数			義務教育学校に すると、複式の授業を ほぼ解消できる！			
南砺つばき学舎 (井口小・中)	88	69	19				
利賀学舎 (利賀小・中)	23※	17	6				
上平小学校・平中学校	85	115	-30				

<令和6年5月1日時点での児童生徒数で作成>

結論(私個人の考え)

地下鉄も大型ショッピングセンターもない南砺市

どの校舎も新しく、まだ20～30年使える



小規模校のよさを生かしてすべての教員が
すべての子どもがわかる環境を維持する



現状の環境を生かして、人間性あふれる

あったかい子どもを育てよう

3 学校の主体性・創造性 を支える教委の取り組み

**一問題点への対応と
さらなる改善の促し一**

きっかは（ある小学校の入学式で）との
校長「新入生が36人、2クラスでよかった」
「でも加配の先生は、未経験の講師
しか配属されなかった、心配…」
松本「教室は40人は入れるのだから、
運用上は全部T-Tでやったら…」
校長「そんなこと、していいんですか？」

教育長就任↓学校を回る

① 今、なぜ「教育改革」か？ ”戦後74年間の『当たり前』を見直す”

<問題状況>

1. 学校のブラック企業化
(残業が当たり前)
2. 子供減少によるひずみ
(部活・複式)
3. 先生の若返りによる
教育力低下
4. 「親育て」の必要性増大

<南砺市のよさ>

1. 校務支援システム
設置
2. 保・幼・小・中
一貫教育の推進
3. エアコン完備
4. 合併15年
5. 協力的地域
(小規模多機能自治)
6. オープンスペース・複式の
教育資源の蓄積

夏・冬休みは
必要か

- ・夏休み9日、冬休み6日のみ
- ・6限目の廃止
(子供の下校: 小:15時半 中:17時半)
(毎日の閉校: 小:17時半 中:18時半)

先生も計画的に
休んだら

- ・5～2月、全員有休5日間まとめ取り
- ・複数担任制により、子供への影響軽減
- ・その間、無担任が1週間ずつ仮担任に

もっと「家庭教育」を
重視しては

- ・家庭教育のために子供が学校を休むことが
当たり前できるように
(部活の全国大会等出場のためも同様)

もっと「社会教育」を
重視しては

- ・部活数激減(クラブチーム?)
⇒指導(市職員、会社員 1H分) } 同時実施
- ・部活による他校入学認可
- ・教員の複数顧問
(卒業まで生活面の指導: 第2担任)
- ・夕方の児童生徒の活動支援
(小規模多機能・企業・行政)

1学級1担任制を
やめたら

- ・単級の小学校……1・2年、3・4年、5・6年
生・図・音・体・家・総: 合同学習
- ・複数クラス……学年: 合同学習
- ・学級固定化の解消、中学校: 学年体制
- ・教科担任+学級担任による授業も常時可能!
～OJTの日常的実施～
- ・教員の時差出勤

学校の独自性
助長

- ・テスト、保護者会など
各校の裁量で!!! ⇒1学期制?

南砺市の教育財産・よさ

(旧町村時代から特色ある教育研究)

平野部： オープンスペースの活用
自啓教育

山間部： 多くの分校
複式学級の教育 など

／ウハウが今も残っている！

改革の3本柱

(小規模校のデメリット解消・持続可能)

1 チーム担任制: R2より実施

(教育委員会主導、各学校主体)

2 地域基盤の小中一貫教育: R3より実施

(教育委員会主導、各地域が主体)

3 部活動改革: R2より検討委員会立ち上げ

(市教委主導、市内一斉)

戦後74年間の
「当たり前」を見直す！

①「チーム担任制」

《問題状況》:大量退職・大量採用
(質的な低下・学級間格差)

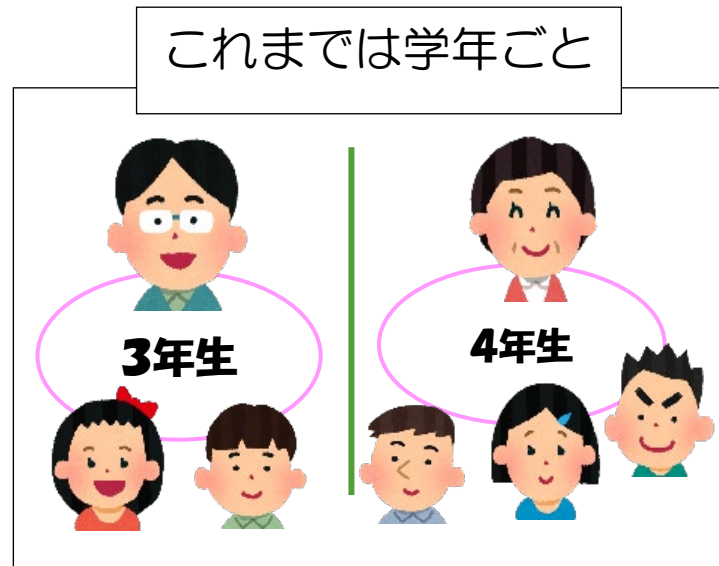


教員がチームになって複数学級の指導に
当たる(市の方針)。

方法は各学校で(学校の主体性重視)。

【小学校の場合】

＜学年単級の学校＞



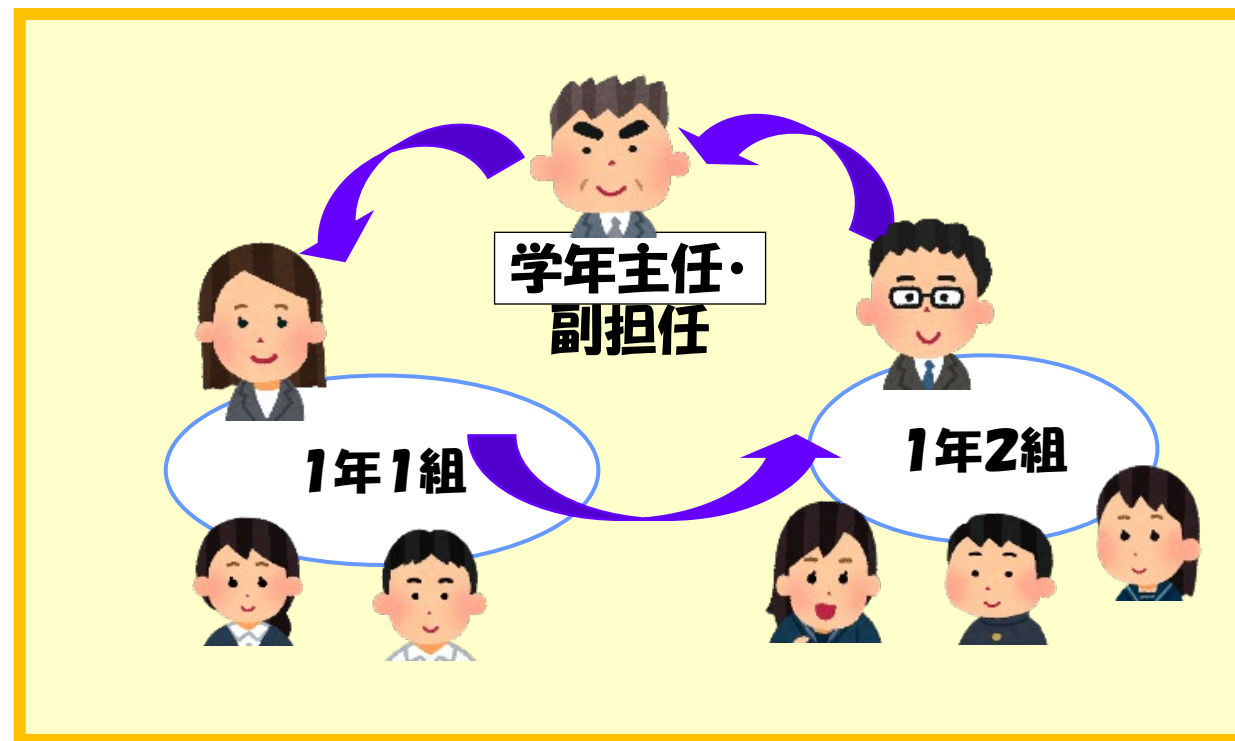
※ 音楽科、体育科など、学習指導要領の目標が複数学年にまたがるもの、朝や帰りの会等で実施。

【中学校の場合】

≪学年複数学級の学校≫

学年チームによる
朝の会

学級担任による
朝の会



学年合同、学年主任等も含むローテーション など
→ 朝の会担当者が1限をうけもつことで時差出勤が可能に

生徒指導の例

多くの目で見守り・チームで対応

- ・多くの目で多面的・多角的に捉える
- ・新しい視点で考えてみる
(ベテランの経験、若手の感覚)



具体的には

- ・連絡帳の確認をチーム内で交代する
- ・児童・生徒の言動や変化は、すぐに話題にする
(表情、言葉遣い、忘れ物など)
- ・**OJT研修**として、対応の仕方を考える
など

対応は
素早く！

よいことも
話題に！！

<保護者対応>

- ・**チーム**で、対応を考える
- ・電話ではなく、足を運んで
Face to Face(顔を見て)
- ・**伝えたくなかった心に共感**する

<児童・生徒対応>

- ・児童・生徒の思いを考える
なぜ、そんなことを伝えに来るのか
なぜ、そのような態度なのか
(心配 不安 さびしさなど)
- ・**チーム**で、対応を考える

- ・信頼できる先生だ
- ・安心して相談してみよう

- ・どの先生でも大丈夫
- ・先生に話してみよう

学校を支えるポイント：その1

「チーム担任制」

学級・学年間の不均一は当たり前
教師の不均一も当たり前

多様性を認め合い、助け合おう

学校を支えるポイント：その2

「チーム担任制」

方法は各学校で

(学校の主体性・創造性の重視)

- 鍵：①何が決まりでどこまで任せられているかを明確にする
②する方が子どもにとっても教師にとってもよいときはする！
③うまくいかなかったら、即修正！

② 地域基盤の小・中一貫教育 (例) 夏休み、冬休み期間も学校ごとに

◇一般的な夏休み

市内一律で

7/25～8/31

◇南砺市一番短い夏休み

南砺つばき学舎

7/31～8/22

◇南砺市一番長い夏休み

福光中学校ほか4校

7/24～8/27

7/25

8/31

38日間

7/31

8/22

23日間

7/24

8/27

35日間

(令和6年度)

南砺つばき学舎(南砺市最初の義務教育学校)

毎日5限（6限の廃止）

**部活動をして、残業しない学校を目指す
（毎日家族と夕食を！：豊かな日常）**



授業時数確保のため、夏休みを短縮

週当たり29コマなのに、25コマしかできない？

時間割を組むのが大変……

6パターンの時間割の作成

曜日	A						B						C						D						E						F					
学年	1限	2限	3限	4限	5 限	つばき	1限	2限	3限	4限	5 限	つばき	1限	2限	3限	4限	5限	つばき	1限	2限	3限	4限	5 限	つばき	1限	2限	3限	4限	5 限	つばき	1限	2限	3限	4限	5 限	つばき
1	国	生	体	国	外		国	音	算	体	外		国	算	図	図	外		算	道	国	音	外		国	算	生	書	学		算	生	国	体	つばき	
2	国	生	体	算	外		算	音	国	体	外		国	国	図	図	外		国	道	国	音	外		算	国	生	国	学		国	生	算	体	書	
3	算	国	体	算			外	国	図	図/音	算		算	体	国	理	総		外	体	道	国	算		国	音	理	書	総			外	社	学		
4	国	算	体	理	社		国	外	図	図/音	国		国	体	算	算	総		国	体	算	社	算		国	書	算	理	総		外	算	社	理	学	
5	国	家	体	算			国	算	外	理	総		社	外	家	体	理		国	算	理	道	学		図	算	理	算		国	総	音	社	算		
6	社	家	体	外	国		国	社	算	外	総		国	理	音/家	体	算		社	国	算	道	学		図	図	体	算	理	外		国	総	音	算	理
7	国	美	英	理	社		体	数	総	総	理		英	社	道	音	数		技	英	音	国	家		国	理	英	体	学		数	英	国	社	体	
8	理	英	数	国	体		理	国	総	総	数		国	美	英	道	音		理	技	英	家	社		英	社	数	体	学		社	体	理	英	国	
9	英	社	理	数	国		社	理	総	総	体		理	道	国	英	音		数	社	技/家	英	体		社	英	国	数	学		理	体	美	数	英	

多様なカリキュラム例

- ① 事務量が多い4月と3月は5限
- ② 学年そろって部活ができる期間は5限
- ③ すべて5限
- ④ スキーシーズンは5限
- ⑤ 長期休み直前・直後は5限 など

きっかけ

義務教育学校の創設

6限廃止 → 部活動も勤務時間内にできる
そのために、夏休みは20日間に短縮



校長会での感想

「いいなあ、義務教育学校は・・・

小中学校は、教育委員会が夏休みを
決めるので、工夫ができない」

学校を支えるポイント：その3

**「各地域を基盤とした
小・中一貫教育」**

**学校の不均一は当たり前
地域と協力し、魅力あふれる学校へ
みんなで創意・工夫を……**

③市教委主導の部活動改革

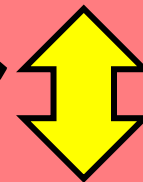
ー 持続可能なシステムを創る ー

南砺市の現状

- ・1年生の入部でようやくチームが揃った
- ・3学年合わせても単独で活動できない
➡ 新人チーム(1、2年)の増加
- ・部員不足のため、吹奏楽部が廃部になる学校がある。
- ・人数不足による競技力の低下
- ・選択肢がない学校 ... 仕方なく所属

5クラス → 2クラス

全校600人 ↔ 全校200人



部活動の数がそんなに減っていない！

学校では対応不可能

●文部科学省が推進する部活動改革

- ・ 目的：教員の働き方改革
- ・ 対象：休日のみの中学校部活動の地域移行

●南砺市が推進する部活動改革

- ・ 目的：市の財産である今あるすべてのスポーツ、文化・芸術を残し、持続可能な生涯教育の環境をつくること。子ども中心。
- ・ 対象：①平日も含めた中学校部活動の地域移行
②小学校段階も含めた地域移行

改革の視点1「地域移行」

部活動の地域移行を、

基本平日2回、休日1回の週3回実施

監督・コーチ等は、顧問ではなく地域指導者

7割を占める未経験者顧問の指導を撤廃

改革の視点2「拠点校化」

競技協会と連携し、部活動の拠点校化・地域
クラブ化を図る

望ましい部員数、指導集団の確保

改革の視点3 「小・中一貫の指導体制」

競技団体による小・中一貫指導をすることで、
『スポーツ、文化・芸術の持続可能な環境づくり』

× 中：時給1600円 → 週3日で年50万円

× 小：0円 これでは、指導組織が壊滅

南砺市の対応(完全実施時) **小・中を問わず、**

指導者謝金 1回1000円 を複数名に

改革の視点4 特認校制度

希望する通学区域外の市内全小・中・義務教育学校へ入学することを認める

**公共交通による通学定期代
全額 市が負担**

学校を支えるポイント：その4

「教師の働き方改革：本質ではない」

あくまで、子ども中心

週3回の小学校段階も含めた地域移行
(すべての指導者に謝金)

地域と学校・保護者との分業

連携では、学校の負担が大きすぎる

いつまでたっても変わらない

南砺市の教育環境

学校・生徒・教員

ならなかった

今の環境を生かし

みんなのアイデアで

わくわくできる学校に！

ありがとうございました